

# 予防接種について

## 《 結核(BCG) 》

### BCG

◆ **BCGワクチンについて** 結核を予防するための生ワクチンです。

◆ **接種対象年齢** 1歳の誕生日の前日まで（標準的な接種期間は生後5か月から8か月になるまで）に1回接種します。

◆ **結核とは？** 結核菌の感染で起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人前後の患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからお腹の中でもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

◆ **効果** BCG接種により結核の発病を約4分の1に減らすことができ、その効果は10年～15年程度持続されます。

特に乳幼児における結核性髄膜炎や粟粒結核などの重篤な結核の発病予防には高い効果があります。

◆ **予防接種後の針痕部位の変化** 接種後10日頃に接種部位に赤いポツポツができ、一部にうみができることがあります。

このような反応は接種後1か月頃が最も強くなりますが、その後、かさぶたができて、接種後3か月頃までには治り、小さな傷あとを残すだけとなります。これは、異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。

## コッホ現象とは？

既に結核に感染したお子さんにBCGを接種した場合、早ければ接種後1、2日、遅くとも10日以内に接種部位の発赤やはれ、化膿等が起こることがあります。これを“コッホ現象”といい、通常、2週間～4週間後に治癒します。

**接種後1、2日の反応に対応できるように、BCG接種は週の前半(月～水曜日)に実施するようにしましょう。**

“コッホ現象”が見られたときは、周囲に結核患者がいる場合も考えられ、本人や家族の検査が必要な場合もありますので、早急に接種医にご相談ください。

## 副反応

接種後1か月前後から接種した側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。数ヶ月の経過で徐々に縮小していきませんが、ときにただれたり、大きくはれたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このようなときは接種医にご相談ください。